

The Role of Home-Based Care Managers in Japan : A study using home-based care management work hours and subjective evaluations

影山, 佳奈

<https://doi.org/10.15017/1543934>

出版情報 : 九州大学, 2015, 博士 (看護学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : 全文ファイル公表済

氏名	影山 佳奈
論文名	The Role of Home-Based Care Managers in Japan : A study using home-based care management work hours and subjective evaluations (日本における在宅ケアマネジャーの役割認識 – クラスタ分析を用いた在宅ケアマネジメント業務の時間と主観的評価による検討 –)
論文調査委員	主査 九州大学 教授 中尾 久子 副査 九州大学 教授 藤田 君支 副査 九州大学 教授 樗木 晶子

論文審査の結果の要旨

高齢社会への対応として介護保険制度が創設され、在宅医療・ケアが推進されてケアマネジメントの重要性は認められているが、ケアマネジャーの役割や業務範囲が不明確なことが課題となっている。本研究の目的は、ケアマネジャーのケアマネジメント業務の時間量と、必要度・負担度・達成度を主観的に評価し、ケアマネジャーの役割認識を明確化することである。

在宅ケアマネジャーを対象者とし、自計式タイムスタディ調査により、業務内容、業務時間、業務の必要度、負担度、達成度の記録を依頼した。業務内容分類は、RSW (Residential Social Work) コードの大分類16項目を用いた。必要度、負担度、達成度は数値化した。分析は、業務内容ごとに一日あたりの累積時間、必要度、負担度、達成度を算出し、クラスタ分析により業務内容を分類し、抽出されたクラスタ間の業務累積時間、必要度、負担度、達成度について差の検定を行った。

全国308箇所のケアマネジャー373人から回答が得られた。ケアマネジメント業務16項目は第1クラスタ「ケアマネジメントの遂行を支援する業務」と第2クラスタ「ケアマネジャーに制度上で求められている業務」の2つに分類された。第1クラスタは、契約締結、職員研修、スーパービジョン、権利擁護、苦情解決、ケアワーク、QOLの向上、施設運営管理の8項目、第2クラスタは、ニーズ把握、アセスメント、ケアプラン、チームマネジメント、相談支援、地域連携、間接業務、その他の8項目から構成されていた。介護保険制度で求められているケアマネジャーの主要な役割は、第2クラスタの業務内容と一致しており、業務累積時間は全体の93.2%を占めていた。また主観的評価において、第1クラスタより第2クラスタで有意に高く業務の必要性を認識していることが明らかになった。

以上の結果より、在宅ケアマネジャーが介護保険法において期待されている役割を時間量と必要性の両面から遂行できていることが明らかになり、ケアマネジャーの役割認識を明確化につながる意義ある研究であると考えられる。

予備調査において、各調査委員より専門的な視点から論文内容及びこれに関連した事項について質問や修正を求めた。その結果、概ね適切な回答を得た。よって、本論文は予備調査委員合意の上、博士(看護学)の学位に値する論文として認める。